

国
語

(問題)

(2004 早稲田大学国際教養学部)

注意事項

- 1 問題冊子は、試験開始の合図があるまで開かないこと。
- 2 問題は2～6ページに記載されている。
- 3 氏名をマーク解答用紙の所定欄(1か所)に記入すること。
- 4 解答はすべてマーク解答用紙の記入欄にHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルでマークすること。
- 5 記入欄には、はつきりマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムでていねいに、消し残しがないように、よく消すこと(砂消しゴムは使用しないこと)。

マークする時	● 良い	● 悪い	○ 悪い
マークを消す時	○ 良い	● 悪い	○ 悪い

- 6 問題冊子は持ち帰ること。

(一) 次の文を読んで、あとの問いに答えよ。

文学の研究では、この三十年ほどの間に、ほとんどすべての点について問題が発生し、新しい考え方が提唱されてきた。その中でも今大きな問題になっているのが、文学と文化の関係のあり方である。文学そのものが文化の重要な部分であることは疑い得ないとして、その文学が文化のどの部分に位置し、互いにどのように規定し規定される関係にあるのか、それが問題にされているということである。その「一つを敵対関係におこうとする議論もいたるところで見かける」例えばハロルド・ブルームの『西欧のカノン』には次のような極論が登場する。

今英文科と呼ばれているものはカルチュラル・スタディーズ科と改称され、そこでは漫画のバットマンやモルモンのテーマパークやテレビや映画やロックが、チャーターサーやシェイクスピアやミルトンやワーズワスやウォレス・ステイヴンズにとつて替ることだろう。

このような極論を誘発する状況があるのは事実だとしても、今の時代に西欧の古き良き伝統に固執してみせるその調子からは、その伝統を足場として権威と名声を築きあげてきた学者の怨念めいたものが洩れてくるだけの話である。彼にとつての文化とは何よりもまずエリート階級の教養としてのそれなのだ。

しかし将来につながる可能性をもっているのは、むしろそれとは対照的に、対抗文化の世代に属するジェイムズ・クリフォードの文化のとらえ方の方であろう。この人類学者は、バフチンの思想を引用しながら、その文化概念を展開する。さまざまの全体性を非物質的なものとして表象することに意を用いていたバフチンにとつて、統合された文化世界や言語は存在しない。そのような抽象的な統一体を措定しようとするあらゆる試みは、モノローグ的権力の構築物なのだ。ひとつの「文化」とは、具体的には複数の下位文化、部内者、部外者、多様なグループなどの制限のない創造的な対話である。また、ひとつの「言語」とは、地方語、職業用語、一般的な決まり文句の相互作用や闘争であり、異なった年齢グループ、個人等々の発話である。バフチンにとつて、多声的小説とは、文化的あるいは歴史的な全体化による力業ではなく、むしろ多様性のカーニヴァルの闘技場だ。バフチンは談話的複合性、ないしは複数の声の対話的相互作用に適した、あるユートピア的なテクスト空間を発見する。文化をさまざまの階級、人種、ジェンダー、セクシュアリティ、土地、宗教、年齢などによって差異化している価値観の複合体とする見方に、私も賛成する。しかもその複合体を構成する各部分は併存しながらも、絶えず大小強弱の対立を起こしているはずである。そこでは、全体が均質化して安定状態に達するなどということは考えられない。

イギリス産のカルチュラル・スタディーズの中ではほぼ公認されている文化のとらえ方は、このような文化概念にこそ接ぎ木すべきものであるだろう。例えばレイモンド・ウィリアムズの有名な規定によれば、

文化とは、ひとり芸術や学問のみならず、さまざまの制度や日常の行動を通して、何らかの意味や価値観を表現することになる特定の生活のあり方を描き出すものなのである。この規定から出発すると、文化を分析するとは特定の生活のあり方、特定の「文化」の内にひそむ、そこに見てとれる諸々の意味と価値観を明らかにするということである。

ということになる。ここで言われている「特定の生活のあり方」は特定の階級や民族や国家に限定されるものではない。特定の文化にしても、教養のあるエリートのみに限定されるものではないし、逆に民衆文化と同一視されるものでもない。純粹な民衆文化など存在しないし、エリート文化なるものが質の高いエッセンスのみからなるなどと考えるのは茶番にすぎない。

注1 カルチュラル・スタディーズ……今まで研究の対象とされていなかったいわゆる大衆文化をも視野にいれ、従来の文化概念を問い直しつつ発達した人文・社会科学分野における新しい研究方法。

注2 対抗文化……一九六〇年代にアメリカを中心に起こった反体制的・反主流の政治文化。

問一 傍線部1に見られるように、筆者は文学と文化を「敵対関係」にとらえている例としてハロルド・ブルームの論を挙げている。筆者はブルームに対してどのような考えを持っているか。もつとも適當なものを次のア～エの中から選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- ア 文化をエリートの教養に限定するブルームに対して、筆者はむしろ民衆文化こそ文化だと考えている。
- イ カルチュラル・スタディーズが対象にしているような民衆文化を文化概念に含めないブルームに対して、筆者はブルームが古い学問的伝統に固執していると考えている。
- ウ カルチュラル・スタディーズが英文科にとってかわると主張するブルームに対して、筆者はそのような状況にはならないだろうと考えている。
- エ カルチュラル・スタディーズが英文科にとってかわると主張するブルームに対して、筆者は極論ではあるがおおむね正しいと考えている。

問二 傍線部2の後にジェイムズ・クリフォードの文章が引用されている。引用部分はどこからどこまでか。もつとも適當なものを次のア～クの中から選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- ア さまざまな全体性を．．．対話である。
- イ そのような抽象的な．．．対話である。
- ウ ひとつの「文化」とは．．．対話である。
- エ さまざまな全体性を．．．賛成する。
- オ そのような抽象的な．．．賛成する。
- カ ひとつの「文化」とは．．．賛成する。
- キ さまざまな全体性を．．．発見する。
- ク そのような抽象的な．．．発見する。

問三 バフチンの思想を介してクリフォードが考える文化の説明として、もつとも適當なものを次のア～エの中から選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- ア 文化は上位文化と下位文化で構成され、上位文化はモノログ的権力によって下位文化を支配する。
- イ 文化は固定的なエリート階級の文化と確固とした民衆文化で構成され、完全に二分化される。
- ウ 文化は多様性を持つ複数のグループで構成され、それらがぶつかり合いながら作られる。
- エ 文化は複数の多様なグループが、お互いに協調し合うことによって創造される。

問四 傍線部3「特定の生活のあり方」の説明として、もつとも適當なものを次のア～エの中から選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- ア 特定の階級や民族や国家の制約を常にうけているという生活のあり方。
- イ 特定の意味や価値観が日常の行動にも現れてくるという生活のあり方。
- ウ 特定の社会制度に制約を常に受けているという生活のあり方。
- エ 特定の意味や価値観が芸術や学問に現れてくるという生活のあり方。

問五 本文の主旨に合致するもつとも適當なものを次のア～エの中から選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- ア 文化の分析とは、エリート階級の教養を対象とし、その社会の人々の行動や生活の奥にある意味や価値観を分析することである。
- イ 文化の分析とは、一般の人々の日常を対象とし、彼らの価値観を明らかにすることである。
- ウ 文化の分析とは、多数の国々の文化を比較検討し、その文化固有の価値観を分析することである。
- エ 文化の分析とは、具体的な対象が問題ではなく、人々の行動や生活の奥にある意味や価値観を明らかにすることである。

(二) 次の文を読んで、あとの問いに答えよ。

情報革命への適応能力の国際的な格差がもたらす「デジタル・デバイド」が話題になっている。それと重なって「イングリッシュ・デバイド」、つまり英語力格差が、わが国の国際的地位をおびやかす危険もひしひしと感じられる。

急激に進むグローバル化によって、国境越しの対話やコミュニケーションは量においても速度においても飛躍的に増大している。国際的な対話は、好むと好まざるとにかかわらず、英語によって行われる傾向が顕著である。その中にあって、わが国の翻訳能力は素晴らしいし、自動翻訳機の向上にも大きな期待がよせられている。しかし、それは

I な領域に限られた効果しかなく、話題が多¹キにわたる複雑な交渉や感情のニュアンスに富む会話に役立つようになるとは、ちよつと考えられない。

もちろん、通訳をつれていけば、国際会議でも日本語で発言できる。とはいえ、機²ビにふれる話合いは、会議場の外の廊下とか、レストラン、ときには手洗いで、さりげなく行われることが多く、そこに通訳を連れていくのははばかられる。日本語が国連の公用語に採用されたとしても、非公式な場での会話は圧倒的に英語で行われる。

ア

グローバル化する世界は、コカ・コーラやマクドナルドに代表されるように、

甲 ではない。それどころか、それに触発されて異なる文化や地域に属する人々が強烈な自己意識をもち、自己主張を展開する場だといえよう。しかし、自己主張だけでは、国家や民族間の対話や交渉をスムーズに行うことができない。

イ

人権や民主主義について、地球的な価値観が育ってきている。だが、それを実現する方法については多様な考えが存在している。外交の主体は政府であるが、いまや企業、財界、学界、地方自治体、NGO（非政府組織）などが幅広く、

II に交流しあう時代が到来している。そこでは二十一世紀の世界共通語にもっとも近いといえる英語を駆使し、最新の情報を踏まえて活躍する個人の能力が問われている。天然資源に乏しい小国シンガポールが、英語力をふくむソフトと人材をフルに活用して有数な国にしあがっているのは参考になる。

ウ

日本人の英語力が芳しくなく、アジアの中で最低レベルにあるのは周知の通りだ。その第一の理由は、わが国がいまや経済大国として最高教育まで自国語で受けられるようになり、欧米への留学意欲がややなえてきたことによる。第二には、英語教育が大規模に行われているわりには成果が乏しく、欠陥をどう是正するかについての議論に手間取っていることがあげられる。

エ

時間と精力を注ぐわりに成果の乏しい教育をいつまで続けようとしているのだろうか。その上、日本人の器用さがあるだけに、片仮名化された擬似外国語がやたらに横行しているのも困りものだ。外国語には日本語にない音が多いから、片仮名の使用は日本人を、本物の言葉や発音から遠ざける結果をもたらしている。

オ

過去のがが国の外国語教育は、たしかに読解力と文法のみを重点を置きすぎたといえる。そのため、哲人カーライルのような文章が書けても、話す方は赤ん坊に等しい「教養人」が生産されてしまった。しかし、だからといって、発音の方は立派でも、内容空³ソな会話しかできないというのでは、決して国外で尊敬されることにはなるまい。そう考えると、小学校レベルで外国語に親しませるといのは本当に必要だろうか。低学年では、むしろ国語を正確に読み書き話す力をつけるのが先決であり、その基盤なしに外国語を教える、中途半端な根無し草的「国際人」を養成することになりかねない。

外国語を習得することは、その国の文化や社会を理解することにつながる。言葉をカギとして、人は

III 世界に入っていく。新しい言葉を知ること、人の知的世界がひろがり豊かになってくる。従って外国語の習得自体を目的とする人がいても、おかしくはない。しかし、より多くの人々にとって、外国語はあくまで仕事的手段にすぎない。自分の考えを伝えたり相手の考えを知ること、両者の溝を狭め、自分の利益を増進していく

乙 がそこにある。

問六 次の文は、本文中に入るべきものである。もつとも適当な箇所を **ア** の中から選び、その記号の記入欄にマークせよ。

つまり発信するだけでなく正確に受信する必要がある。

問七 空欄 **I**・**II**・**III** に入るもつとも適当な語を、それぞれ次のア～エの中から選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- | | | | | | | | | |
|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| I | ア | 感情的 | イ | 経験的 | ウ | 専門的 | エ | 潜在的 |
| II | ア | 水平的 | イ | 論理的 | ウ | 均質的 | エ | 抽象的 |
| III | ア | 断片的 | イ | 感覚的 | ウ | 幻想的 | エ | 異質的 |

問八 空欄 **甲** に入るもつとも適当なものを次のア～エの中から選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- ア 国際社会で求められる個性を重視する世界
- イ アメリカ文明に多極化された刺激的な世界
- ウ アメリカ文明に一極支配される単調な世界
- エ 国際社会で必要不可欠な外国語重視の世界

問九 空欄 **乙** に入るもつとも適当な語句を次のア～エの中から選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- ア 読んで美しい外国語
- イ 流暢で典雅な外国語
- ウ 正確な発音の外国語
- エ 道具としての外国語

問十 本文の内容と合致するもつとも適当なものを次のア～エの中から選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- ア 外国語学習が重要なのは、異国の文化や社会を理解し、知的世界がひろがるからである。
- イ 外国語学習が重要なのは、国際社会で自己主張し、国家の利益を獲得するためである。
- ウ 外国語学習が重要なのは、グローバル化する世界に適応し、国際的な地位を回復するためである。
- エ 外国語学習が重要なのは、各人のもつ強烈な個性を引出し、本来の教養人を育成するからである。

問十一 傍線部 1～3 の太字カタカナの漢字を含むものを、それぞれ次のア～エの中から一つずつ選び、その解答欄にマークせよ。

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ア | キ | 険 | 区域 | イ | キ | 待 | 値 | ウ | 分 | キ | 点 | エ | 進 | 学 | キ | 望 |
| 2 | ア | ビ | 力 | | イ | ビ | 品 | | ウ | 優 | ビ | | エ | 語 | ビ | | |
| 3 | ア | ソ | 案 | | イ | ソ | 国 | | ウ | 控 | ソ | | エ | ソ | 外 | | |

(三) 次の文を読んで、あとの問いに答えよ。

甲 ある大福長者のいはく、「人はよろづをさしおきて、ひたふるに徳をつくべきなり。貧しくはは生けるかひなし。富めるのみを人とす。徳をつかんと思はば、すべからくまづその心づかひを修行すべし。その心といふは、他の事にあらず。人間常住の思ひに住して、かりにも無常を觀する事なかれ。ア これ第一の用心なり。次に、万事の用をかなふべからず。人の世にある、自他につけて所願無量なり。欲に隨ひて志を逃げんと思はば、百万の錢ありといふとも、しばらくも住すべからず。イ 所願は止む時なし。財は尽くる期あり。限りある財をもちて、限りなき願ひにしたがふ事、得べからず。ウ 所願心にきざす事あらば、われを滅すべき悪念来たりと、かたく慎み恐れて、小要をもなすべからず。エ 次に、錢を奴のごとくして使ひ用ゐる物と知らば、ながく貧苦をまぬかるべからず。オ 次に恥に臨むといふとも、怒り恨むる事なかれ。次に、正直にして約を固くすべし。この義をまはりて利を求めん人は、富の來たる事、I のかわけるにつき、II のくだれるに従ふがごとくなるべし。錢積りて尽きざる時は、宴飲声色を事とせず、居所をかざらず、所願を成ぜざれども、心とこしなへに安く樂し」と申しき。そもそも人は所願を成せんがために財を求む。錢を財とする事は、願ひをかなふるが故なり。所願あれどもかなはず、錢あれども用ゐざらんは、全く貧者とおなじ。何をか樂しびとせん。

問十二 次の文は、本文中に入るべきものである。もつとも適當な箇所を ア イ ウ エ オ の中から選び、その記号の記入欄にマークせよ。

君のごとく神のごとく恐れたふとみて、従へ用ゐる事なかれ。

問十三 空欄 I II の中に入るもつとも適當な語を、それぞれ次のア、イ、ウの中から選び、その記号の記入欄にマークせよ(同じ語を二度用いてもよい)。

ア 川 イ 水 ウ 火 エ 海

問十四 傍線部甲「ある大福長者」の主張が承認するものとして、もつとも適當なものを次のア、イ、ウの中から選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- ア 「徳をつかんと思」う事
- イ 「限りなき願ひにしたがふ事」
- ウ 「所願心にきざす事」
- エ 「錢を奴のごとくして使ひ用ゐる」事
- オ 「怒り恨むる事」

問十五 傍線部乙の大意としてもつとも適當なものを次のア、イ、ウの中から選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- ア 願望を満たすことがなくとも、心はいつまでも安らかで楽しい。
- イ 願望を満たすことができれば、心はどこまでも安楽でいられる。
- ウ 願望をなしたとげたとしても、心は永遠に安楽を求める。
- エ 願望をなしたとげようとすれば、心は永遠に安らかで楽しい。

問十六 傍線部甲「ある大福長者」の主張に対し、筆者はどのように考えているか。もつとも適當なものを次のア、イ、ウの中から選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- ア 人間の感情として認めがたい。
- イ 論理的に矛盾していて認めがたい。
- ウ 貧者の生き方にふさわしい。
- エ 錢は樂しみのために用いられたい。
- オ 願いをかなえるために錢は必要。